

南海トラフ大地震時における道の駅の災害支援と 防災技術に関する調査研究

宮崎大学 教授 熊野 稔

1. 調査研究の目的

本研究では、南海トラフ大地震時に被害が甚大な地域における道の駅の災害支援と防災機能強化のための役割分担や道の駅同士のネットワークを持った支援、道の駅の地元地域との協働活動による被災者支援の知見とソフトとハード両面の防災技術の活用の方角性を明らかにして、南海トラフ大地震時等における道の駅による災害支援のフレームを構築することを目的とした。

2. 調査研究の方法

- ① 道の駅の災害支援に関する追加資料収集とデータ分析による知見確保（2019～2022）。
- ② 宮崎、高知、徳島、和歌山、三重、愛知、静岡県道の駅におけるハザードマップ等による条件調査と設置自治体へのアンケート調査（2019,4～2022,3）。
- ③ 各ブロック道の駅連絡会（中国・四国・中部・近畿）へ現地調査。
- ④ 全国における道の駅の災害支援、防災に関するデータを取得し知見を得る。
- ⑤ 道の駅の災害支援・防災技術の有り方・地域協働の高度化された知見を得て、方向性及び、フレームワークをまとめる。

【各県道の駅担当課の協力を得て実施する各道の駅へのアンケート調査内容】

災害時の対応について（避難者・車中泊の受入れ、炊出しの実施、電力供給、災害情報受発信、非常食の提供、中継基地、毛布等の提供、義援金の集金、復興イベント等）の可否等を問う。防災実践について（避難訓練の実施、災害支援経験等）、災害支援についての問題点・課題点、災害支援を行うために必要な条件、該当する防災項目のチェック回答〔洪水・土砂災害・津波等の災害エリアか、自治体防災計画における道の駅の機能・役割の有無、自治体と道の駅との災害協定の有無（協定内容と今後の方向性ほか）、災害支援・防災ガイドライン策定の有無（ガイドラインを有していれば内容の分析）、BCP計画の有無、避難所指定の有無〕。

既に防災化した道の駅は、さらにその背景・理由、想定される自然災害、既存の防災技術や設備、想定される防災性能や防災技術、既存防災設備の内容・機能・設置場所・防災通信や情報設備の設置状況、防災情報の種類、現在提供している道路・地域等情報の種類、災害時提供しえる防災情報、災害時必要でかつ提供不能な情報、情報機能強化に向けたニーズと対処方法、導入費用・維持管理費用、運営上の課題や留意点、地域特性の活用、周辺との申し合わせ・連携や協定・防災計画・災害対応マニュアル・ガイドライン、防災訓練等の有無、今後の方向性）他等を調査しデータを整理分析して知見を得る。

2. 調査研究の結果

各県の道の駅の条件調査・アンケート調査結果から、道の駅が災害時に防災拠点として機能することが可能であるかの評価を行った。

表1 総合評価一覧

	防災道の駅	災害時支援可能	やや支援可能	支援はやや難しい	支援は難しい (避難が必要となる可能性有)
宮崎	都城	酒谷 北川はゆま 日向 つの	田野 高千穂 ゆ〜ぱるのじり 北方よっちみる屋	山之口、青雲橋 えびの、フェニックス なんごう、とうごう 高岡、北浦	
高知	あぐり窪川	大月	南国風良里 美良布 ↓アンケート未回収 かわうその里すさき	大杉、ゆすはら 四万十大正、布施ヶ坂 土佐さめうら 木の香、633美の里	四万十とおわ、キラメッセ室戸 土佐和紙工芸村、大山 めじかの里土佐清水、やす 田野駅屋、なぶら土佐佐賀 なかとさ、すくも ↓アンケート無回答有 ピオスおおがた、よって西土佐
徳島	いたの	↓アンケート未回収 みまの里	わじき ↓アンケート未回収 貞光ゆうゆう館、にしいや、 どなり、大歩危	温泉の里神山、鷲の里 もみじ川温泉 ↓アンケート未回収 藍ランドうだつ、第九の里	三野 穴喰温泉 ↓アンケート未回収 日和佐 公方の郷なかがわ ひなの里かつら
和歌山	すさみ	紀州備長炭記念公園	根来さくらの里 ↓アンケート未回収 田辺市龍神ごまさんスカイタワー 熊野古道中辺路 かつらぎ西	あらぎの里、おくとろ くちくまの、しみず たいじ、青洲の郷、白崎海洋公園 みなべうめ振興館、四季の郷公園 ↓アンケート未回収 龍神、しらまの里 水の郷日高川龍遊 くしがきの里、龍之拝太郎 紀の川万葉の郷 明恵ふるさと館	イノブータンランドすさみ くしもと橋杭岩、ねごろ歴史の丘 瀬峡街道熊野川 ↓アンケート未回収 奥熊野古道ほんぐう 柿の郷くどやま ふるさとセンター大塔 San Pin 中津、一枚岩 橋はなの湯、虫喰岩 志原海岸、なち
三重	伊勢志摩		菟野 あやま ↓アンケート未回収 奥伊勢木つつ木館 飯高駅、奥伊勢おおだ 関宿、津かわげ	茶倉駅、いが 熊野・板屋 九郎兵衛の里 ↓アンケート無回答有 紀宝町ウミガメ公園 ↓アンケート未回収 熊野きのくに	美杉 熊野・花の窟 ↓アンケート未回収 パーク七里御浜、海山 紀伊長島マンガウ
愛知	とよはし	瀬戸しなの	豊根グリーンポート宮島 アグリステーションなぐら つくで手作り村 藤川宿、もつくる新城 したら	鳳来三河三石 つく高原グリーンパーク どんぐりの里いなぶ デンパーク安城 筆柿の里・幸田	田原めつくんはうす 伊良湖クリスタルポスト 立田ふれあいの里 あかばねロコステーション にしお岡ノ山
静岡	朝霧高原		すばしり ふじおやま 伊豆月ヶ瀬 掛川 天城越え 富士川楽座	伊豆のへそ、くら戸田 伊豆ゲートウェイ函南 フォーレかかわね茶茗鑑 風のマルシェ御前崎 花の三聖苑伊豆松崎 天竜相津花桃の里 開国下田みなど、玉露の里 川根温泉、潮見坂、宇津ノ谷峠 富士、伊東マリンタウン ↓アンケート未回収 いっぶく処横川	くんま水車の里 奥大井音戯の郷 下賀茂温泉湯の花



図1 災害時に防災拠点として機能可能な道の駅と避難が必要と思われる道の駅

各県に「防災道の駅」が1カ所ずつあり、災害時に支援可能な道の駅とやや支援可能な道の駅が数カ所あることがわかった。災害時に支援は難しいとされた道の駅は、津波、土砂、洪水など2つ以上のハザードマップで危険箇所に入っている場合が多く、災害時に被害を受ける可能性が高いと判断された道の駅である。南海トラフ大地震での津波の被害が考えられる沿岸部には、被害を受ける可能性がある道の駅が多くみられた

4. 考察

調査を行った7県の道の駅の中で、災害時に十分に防災拠点として機能できると判断できる道の駅の数が多いとは言い難いが、防災拠点として機能できる可能性のある道の駅があることも分かった。立地や駐車場の広さ、建物の規模など様々な条件の違いにより、「道の駅」すべてに防災拠点としての機能を持たせることは難しい。災害時には、被害の可能性のある危険な道の駅に向かうことが無いように、地域住民や観光客に周知することが重要である。災害支援が今後期待できる道の駅に関しても、現状はまだ十分であるとはいえないため、国や地方自治体と協力してさらなる充実を図る必要がある。

災害支援可能な道の駅では、ハード面では、電気、水、トイレ、情報、食料、寝具等を提供できる整備、最新設備導入の検討も含め、充実が必要である。ソフト面では、道の駅同士や地元との連携や自治体との災害支援協定の締結が重視されると同時に、BCPの策定、災害時の対応マニュアル作成、避難訓練の実施や指定避難所と協働した防災社会実験など道の駅が独自で出来ることも重要となり、日頃からの災害時への適切な備えが今後さらに期待される。本研究結果が今後の道の駅政策にささやかでも役立てられれば幸いである。